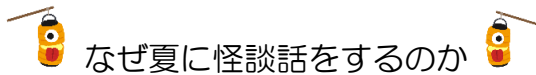


なぜ夏に怪談話をするのか

夏が終わり、いよいよ食欲の秋の到来です！
まって、まって！ 残暑が残るこの秋に、なぜ夏に怪談話をするのかについて
少しだけお話させてください！！



○先人達の知恵

日本では夏に怪談話をするのが定番になっています。
けれど、その風習は日本だけなのだそう。
では、なぜ日本にこのような風習が生まれたのでしょうか。

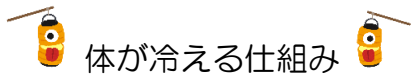
夏に怪談を話すようになったのは江戸時代の舞台が始まりでした。
その時代の庶民にとって、お芝居は貴重な娯楽でした。しかし、冷房設備のない
芝居小屋にたくさんの方が詰め込まれると、気温に加えて人が発する熱気によ
り、ものすごい暑さになっていたことでしょう。

観客はもちろんのこと、その中で演技をしなくてはならない役者さんなら尚更
やりたくない。大御所の役者さんは休みをとったり、巡業に出かけたり長期不在
になるのが当たり前だったそう。

そこで、普段は主役を張れない脇役の役者さんたちが、知恵を絞って始まったの
が、幽霊が登場する怖い話の舞台でした。

ヒトは恐怖を感じると、生理反応として肌寒さを感じるようになっているので、
観ている方はひと時であっても暑さを忘れることができていたようです。

(裏面へ)



上記の記述にもありましたが、ヒトは恐怖体験や怪談話を聞くと体が冷えると言いますが、本当なのでしょうか？

神経的な面でいうと、「怖い話と寒気」は繋がりがああるということが分かっています。怖い話を聞くと不安や恐怖を強く感じ、交感神経が活発になり心臓の血管が拡張し、心拍数が上がります。

ところが毛穴や皮膚表層の血管は逆に収縮するので、鳥肌がたったり、血流が悪くなり身体が冷えたりするそうです。

幽霊が背後にいるから、体が冷えているわけではないと思っただけで、何となく安心するのは私だけでしょうか。

秋の夜長に、怪談話を聞いてみてはいかがでしょうか。



参照：インターネット 夏に怪談や怖い話をする理由/ゆるじえさん/

新宿御苑前メンタルクリニック(精神科・心療内科)